

The background image shows a residential area with makeshift structures. On the left, there is a structure with a corrugated metal roof and a wall made of yellowish-brown woven material. A black tarp is stretched across the middle ground. On the right, there is a white structure with two circular openings. The ground is dirt and there are some items like a blue trash bin and a black bag in the foreground.

# 益城町仮設住宅団地における駐車場環境の改善

円山研究室4年生

# 1 被害の大きかった熊本地震



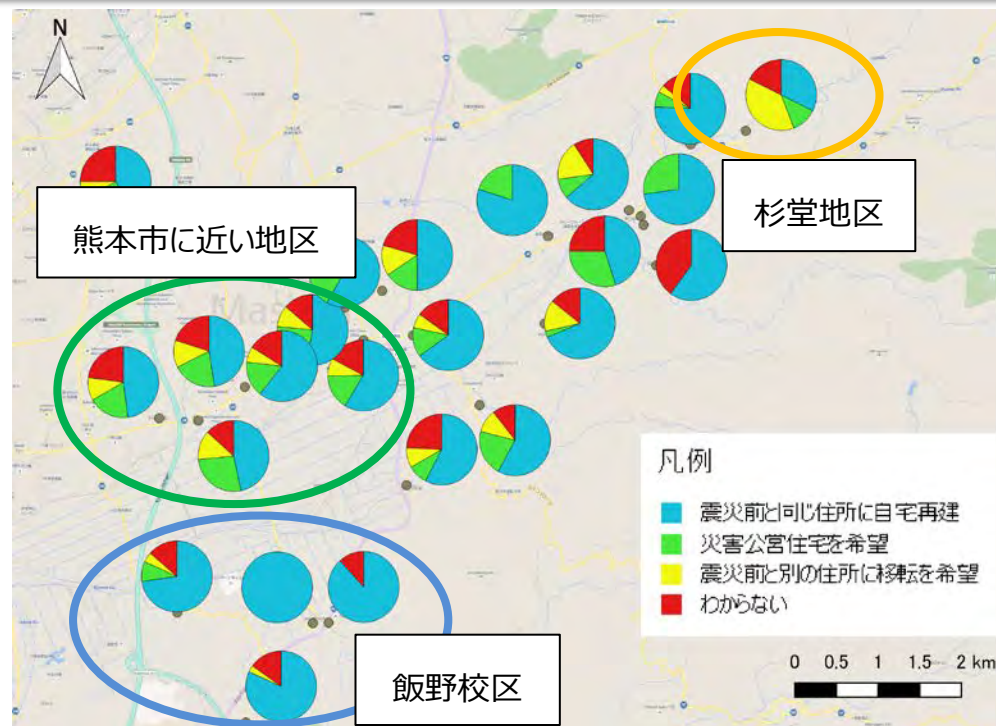
**県内でも特に益城町の被害は大きかった**

# 2 仮設住宅入居者へ聞き取り調査

- 全世帯を対象に聞き取り調査を行った（約1200世帯）
- 調査の目的
  - （1）現時点で不自由な点，不安などを幅広く伺う
  - （2）今後のお住まいに関する希望を伺う



調査の様子



調査結果（一部）

## 課題 → 駐車場が足りない

益城町の仮設団地の多くで、

**1世帯に**割り当てられる駐車場は**1台分**となっています。

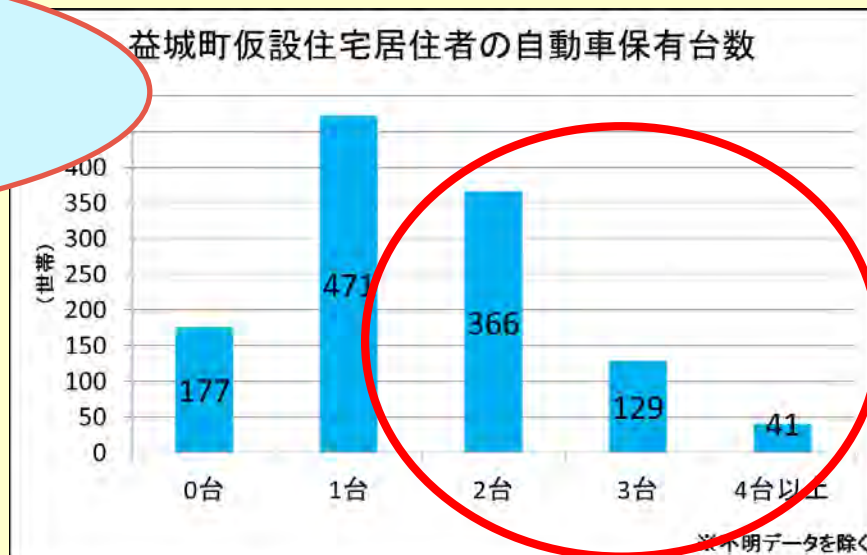
しかし、500世帯以上が車を2台以上所有しているというのが現状。

駐車場が足りないのでなんとかして欲しい  
車を3台所有しているのに1台分しか置けない  
集会所ではなく駐車場を作って欲しい

益城町仮設住宅聞き取り調査より

同時に車の保有台数が0台の世帯に  
与えられた駐車場には空きが生じる

益城町仮設住宅居住者の自動車保有台数



有効活用できるのではないか？



# 5 K団地駐車状況調査

## ■ 1回目

(時間)土曜PM9:00頃

(空き)136/256台分 ※未入居世帯は除く

## ■ 2回目

(時間)12/20(火)AM4:30～6:00頃

(空き)133/256台分 ※未入居世帯は除く

**1回目、2回目ともに空きだった駐車場**

**115台分**

# 6 K団地駐車状況調査から判明した実態

## 実態 → 駐車場は空車だらけ…

仮設団地 K 団地を対象に調査を行ったところ…

なんと約**45%**の駐車場が**使われていない**ことが分かりました。

### 原因は住宅から駐車場までが遠いこと

中には住宅から駐車場までの距離が約160mになることも。

これはおよそ下通入口から三年坂通りまでと同じ距離です。

この距離が高齢者や重たい荷物を持つ人にとっては大きな負担となっています。

そのため玄関の近くのスペースに停めるケースが多く、緊急車両が通りづらい道もある状態です。

仮設住宅から駐車場までが遠い  
駐車場が遠いから家の前に駐車している  
益城町仮設住宅聞き取り調査より

# 2つの調査に基づいた政策提案

行政が全ての団地一つ一つの問題に介入することは難しい

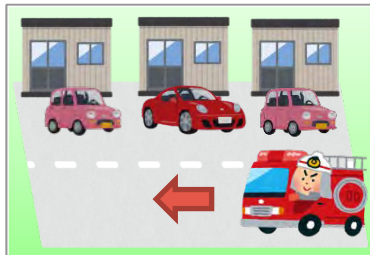


## ■ 提案 → 駐車場問題を解決するためのルールづくり



①使われていない駐車場  
を活用

②要配慮世帯や駐車場から  
遠い世帯は柔軟に対応



③駐車場以外では片側に  
寄せて一列に

新しいルールを設け、住民の協力を得ながら問題解決へ



## BEFORE

複 : 複数保有世帯  
 1 : 1台保有世帯  
 0 : 0台保有世帯  
 ピンク : 要配慮世帯

駐車場以外の場所に車が点在

- ① 並列しており、緊急車両が通りづらい
- ② 車が密集しており、車同士や子供との接触の可能性



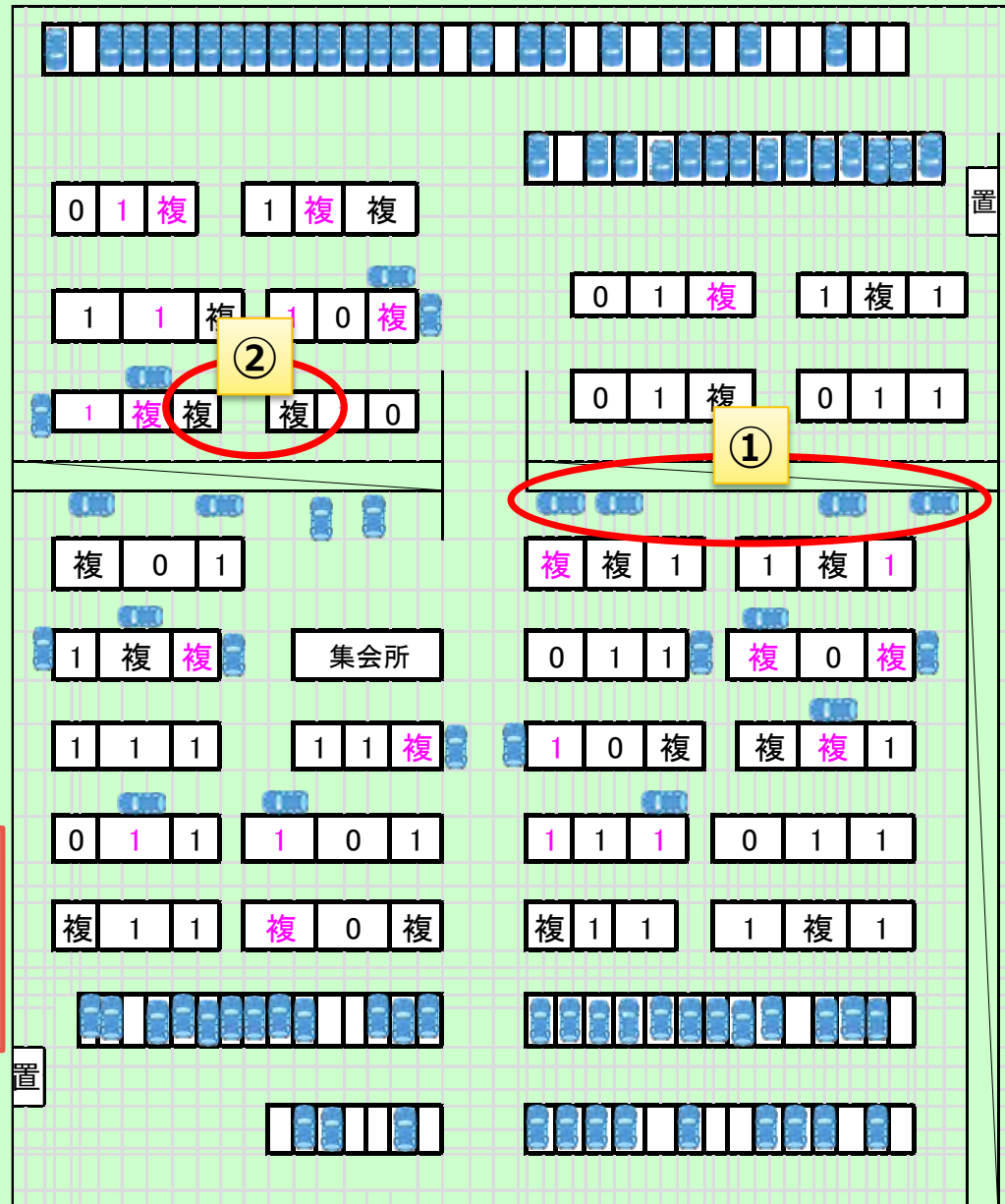
## AFTER

複 : 複数保有世帯  
 1 : 1台保有世帯  
 0 : 0台保有世帯  
 ピンク : 要配慮世帯

使われていない駐車場の活用  
 &  
 車の配置の整理

車の配置がコンパクトに

- ① 緊急車両の通路ができ、家の横につけることができる
- ② 子供の飛び出し等に気づきやすくなる



# 10 期待される効果



駐車場の無駄な空きの減少



緊急車両のルート確保



居住エリアへの自動車流入減少による安全性の向上

# 11 提案のまとめ

○大学生が仮設住宅の住人や自治会の人達と仮設団地内の問題についてじっくり話し合い、実施した仮設住宅聞き取り調査で得られたことを活かして解決策を提案

○長期的な支援ができ、信頼を得やすい地元の大学生が行政の介入が難しい問題に取り組む

○熊本が大学生のボランティア活動の新しい形を創り、全国に発信

